

【テスト印刷用ファイルの採取方法】

テスト印刷用スプールファイルは、QSPGETFコマンドにて物理ファイルにダンプしてください。
外字をご使用の場合には、CPYIGCTBLコマンドにてフォントテーブルを物理ファイルに格納してください。
その後、SAVOBJコマンドにて作成した物理ファイルをSAVFに格納してください。
そして、そのSAVFをFTPにてPCへ転送しメールの添付ファイルとして送信下さい。
以下にQSPGETFコマンド、CPYIGCTBLコマンドの使用法を説明します。

※OS/400のバージョンがV5R4の場合には【QSPGETFコマンド】を飛ばして【CPYIGCTBLコマンド】へお進みください。

【QSPGETFコマンド】

QSPGETFコマンドはスプールファイルを物理ファイルにダンプするためのプログラムです。
CALL QSPGETF で実行して物理ファイルを作成します。

1. 準備

ダンプしたいスプールファイルの属性を、WRKOUTQのオプション8＝属性などで表示し、控えます。

例： スプール属性処理画面

ジョブ . . .	: DSP01	ファイル . . .	: QSYSVRT
ユーザー . . .	: USER1	ファイル番号 . . .	: 1
ジョブ番号 . . .	: 123456		

2. QSPGETFをCALLする

上記の例のスプールファイルをライブラリー USERLIB、ファイル SPOOLDBにダンプする場合、次のようにパラメーターを指定します。
(F4=プロンプトは使用せずコマンドラインから直接入力します)

```
CALL△PGM(QSYS/QSPGETF)△PARAM(' QSYSVRT□□□'△' SPOOLDB□□□USERLIB□□□'△  
' DSP01□□□□□USER1□□□□□123456'△X' 0001'△' MBR1□□□□□□□'  
△=BLANK  
□=BLANK
```

- 注) ・全て英大文字で入力してください。
・物理ファイルとメンバーは自動的に作成されます。1物理ファイルには1メンバーでの作成を推奨します。
・各パラメータは桁数が固定になっております。桁数より短い値を指定する場合後ろにBLANK(例では□で表示)を付加して下さい。
・パラメータは5つとも全て指定して下さい。

パラメータの説明

順序	長さ	
1	10文字	:スプールファイル名
2	20文字 (10文字)	:任意の物理ファイル名(自動作成)
	(10文字)	:任意のライブラリー名(既存のライブラリを指定)
3	26文字 (10文字)	:ジョブ名
	(10文字)	:ユーザー名
	(6文字)	:ジョブ番号
4	16進で4桁	:スプールファイル番号 16進数で指定 X' 0001' ~X' 270F' まで ※V5R1以降では8桁で指定
5	10文字	:任意の物理ファイルのメンバー名(自動作成)

【CPYIGCTBLコマンド】

CPYIGCTBLコマンドはDBCSフォント・テーブルをテープ／物理ファイルに格納するコマンドです。
24×24、32×32の両方格納してください。

1. 準備

格納する物理ファイルを作成します。24×24用、32×32用で2つ作ってください。

CRTPF FILE(ライブラリー名/物理ファイル名) RCDLEN(132) LVLCHK(*NO)

2. CPYIGCTBLコマンドを使用する

パラメーターは以下の通りです。

DBCS フォント・テーブル	...	24×24の場合には「QIGC2424」、 32×32の場合には「QIGC3232」を指定します
コピー・オプション	「*OUT」を指定します
装置	「*FILE」を指定します
選択イメージ	コードの範囲を指定する場合は「*RANGE」、 全てのコードを格納する場合は「*ALL」を指定します

イメージの範囲：

開始ユーザー・コード	選択イメージ：「*RANGE」の時に指定します
終了ユーザー・コード	選択イメージ：「*RANGE」の時に指定します
ファイル	物理ファイル名を指定します
ライブラリー	ライブラリー名を指定します
メンバー	メンバー名を指定します

【CRTSAVFコマンド】

SAVFを作成するコマンドです。

CRTSAVF△FILE(ライブラリ名/作成するSAVF名)

FILEパラメータで指定したライブラリにSAVFが作成されます。

【SAVOBJコマンド】

オブジェクトを保管するコマンドです。

• OS/400のバージョンがV5R3以前

QSPGETF及びCPYIGCTBLでデータを保管したファイルを保管して下さい。

SAVOBJ△OBJ(オブジェクト名 1 △オブジェクト名 2)△LIB(ライブラリ名)△DEV(*SAVF)
SAVF(ライブラリ名/SAVF名)

OBJパラメータのオブジェクト名 1 及びオブジェクト名 2はQSPGETF及びCPYIGCTBLでデータを保管したファイルです。

LIBパラメータは上記ファイルが存在しているライブラリの名前です。

またSAVFパラメータのライブラリ名は保管するSAVFが存在しているライブラリ名です。

• OS/400のバージョンがV5R4

1. 準備

CPYIGCTBLで作成した物理ファイルのライブラリに出力待ち行列(OUTQ)を作成します。

CRTOUTQ△(CPYIGCTBLの物理ファイルのライブラリ名/出力待ち行列名)

WRKOUTQコマンド等で作成した出力待ち行列(OUTQ)に採取するスプールファイルを移動します。

2. SAVOBJコマンドを使用する。

CPYIGCTBLで保管したファイルと出力待ち行列(OUTQ)を保管してください。

SAVOBJ△OBJ(オブジェクト名 1 △オブジェクト名 2)△LIB(ライブラリ名)△DEV(*SAVF)
SAVF(ライブラリ名/SAVF名)△SPLFDTA(*ALL)

OBJパラメータのオブジェクト名 1 及びオブジェクト名 2はCPYIGCTBLでデータを保管したファイルと出力待ち行列(OUTQ)です。

LIBパラメータは上記ファイルが存在しているライブラリの名前です。

またSAVFパラメータのライブラリ名は保管するSAVFが存在しているライブラリ名です。

SAVOBJでSAVFにデータを保管できましたら後はFTPでPCへ転送していただくだけです。FTPの手順は次ページ参照

【FTPでの転送手順】

FTPによるAS/400からPCへのFileの転送手順

① FTPでAS/400へログイン

FTPにてAS/400へログインする場合、AS/400のIP ADDRESS(下図<A>)及びユーザーID(下図)とパスワード(下図<C>)が必要となります。このユーザーIDとパスワードは、PCOMM等を使いAS/400にサインオンする時に使われるIDとパスワードと同等です。ログインまでの作業ステップを以下に記述します。

<A> C:¥TEMP>ftp xx.xx.xx.xx **ENTER**

上記xx.xx.xx.xxは、AS/400に割り当てられているIPアドレスを指定して下さい。

 ユーザー名入力 **ENTER**

<C> パスワード入力 **ENTER**

② ファイルの取得

FTPでAS/400へログイン後、先にSAVFを作成したAS/400上のライブラリーを指定しファイルの取得を行います。取得までの作業ステップを以下に記述します。

<D> ftp>cd XXXXX **ENTER**

AS/400のSAVFを作成したライブラリー(XXXXX)を指定します。

<E> ftp>bin **ENTER**

PCに送られるファイルの送信形式を指定します。

このステップを行わない場合、送信完了ファイルは正しく動作しません。

<F> ftp>get XXXXX **ENTER**

SAVFのFile名XXXXXファイルを指定しFileをAS/400から受け取ります。

<G> ftp>bye **ENTER**

FTPを終了しDOSへ戻ります。これでPC上の作業は終了です。